

令和6年度 高齢者の保健事業と介護予防等の一体的実施に係る 企画・調整担当者研修会開催レポート

開催日・会場：令和6年11月22日（金） さいたま共済会館 5階501・502

一体的実施に係る企画・調整担当の医療専門職を対象とし、埼玉県保健医療部国保医療課・埼玉県国民健康保険団体連合会と共催で開催したところ、46市町49名の職員が参加しました。

○午前の部：広域連合からの説明、国保連合会からの説明、グループでの情報交換

前半は、広域連合から健康課題の分析・評価指標等について説明後、国保連合会からKDBシステムを活用した事業評価、一体的実施・実践支援ツールについて説明しました。

後半は、9グループに分かれて事業の実施状況や課題など、情報交換を行いました。庁内外の連携や事業の実施方法等について共有する機会となり、今後、事業を進めていく上で、参考となる内容だったのではないのでしょうか。



グループでの情報交換

○午後の部：所沢市からの事業実施状況報告、

講義『PDCA サイクルを効果的に展開するために～健康状態不明者対策の取組～』、 グループワーク

前半は、所沢市の企画・調整担当者からハイリスクアプローチ（健康状態不明者対策）の取組について、PDCAサイクルに基づき、令和3年度からの取組を振り返り、事業実施状況等をご報告いただきました。対象者抽出基準の考え方や事業を実施してみて感じたこと等の報告は、健康状態不明者対策の取組を見直すきっかけとなったのではないのでしょうか。

後半は、昨年度に引き続き文京学院大学の米澤純子教授を講師に迎え、高齢者保健事業の目的や健康状態不明者対策におけるPDCAサイクルの視点等についてご講義いただきました。

米澤先生の講義をふまえて、健康状態不明者対策の取組についてPDCAサイクルに基づき、振り返りを行い、課題や解決策などをグループワークで話し合いました。

講師からのアドバイスやグループワークにより、課題解決のためのヒントが得られたのではないのでしょうか。

一体的実施は、地域の高齢者の介護予防・健康づくりのための制度です。広域連合では、市町村や県国保医療課、国保連合会とともに連携し、一体的実施を推進してまいります。

参加者の声（アンケートから抜粋（要約））

- ・日頃、課題に感じていることを共有でき、新たな気づきがあり、有意義だった。
- ・KDBシステムについて、十分に活用できていなかったため、今後事業評価に役立てていきたい。
- ・各年でPDCAサイクルを回し、事業展開している内容や評価シートがとても参考になった。
- ・事業目線になっていることに気づかされた。高齢者を主に目標を段階的に設定していきたい。
- ・先生の講話にとっても励まされた。改めて保健師としてこの事業に取り組む力や気づきをもらえた。
- ・個人ワークを実施して、事業を振り返ることができ、同規模自治体と苦労しているところや工夫しているところを共有でき、参考になった。